

# 令和6年度事業報告書

(2024年1月1日～2024年12月31日)

## I. 事業の概要

当法人の目的である、美術工芸を通じて国際間の相互理解の推進及び我が国文化の向上のため、下記事業を行いました。

石洞美術館では、当館の代表的な陶磁器である古染付の展覧会の最終回 Part III を開催致しました。また、「第 52 回伝統工芸日本金工展」においては、公益社団法人日本工芸会の名誉総裁であられる佳子内親王様が、ご来館されました。さらに秋には「昭和に活躍した現代陶芸家展」を開催致しました。

美術工芸の創作、研究に対する助成事業では 6 件の応募があり、2 件の応募者に助成をしました。若手金属芸術家を奨励する淡水翁賞の授賞式を 3 月に行いました。

## II. 事業毎の計画

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

### (1) 石洞美術館

#### ①展覧会

「古染付展 Part III」1月16日火曜日～3月31日金曜日

開館日数 66 日 来館者数 924 名 一日平均 14 名

中国 明時代末期の染付磁器 79 件を展示しました。

「第 52 回伝統工芸日本金工展」5月18日土曜日～6月29日土曜日

開館日数 37 日 来館者数 1949 名 一日平均 37 名

「伝統工芸日本金工展」は公益社団法人日本工芸会との共催の展覧会です。

出品作品は鑑審査を実施し、文部科学大臣賞、東京都教育委員会賞、朝日新聞社賞など共に、石洞美術館賞も授与致します。

「昭和に活躍した現代陶芸家」9月1日日曜日～11月30日土曜日

開館日数 78 日 来館者数 1213 名 一日平均 17 名

濱田正司と北大路魯山人と十四代坂倉新兵衛の作品 78 件を展示しました。

## ② 地域との連携活動

石洞美術館での金工展開催中には講師を招き、2回の展示作品の解説を行いました。また、重要無形文化財保持者 桂盛仁先生の講演会も実施されました。足立区内の小、中学生には招待券を配布いたしました。

## ③ 広報活動

美術館・博物館共通割引入場券「ぐるっとパス」に参加し、美術館・博物館に興味を持っている人が来館するきっかけにします。2024年は「ぐるっとパス」に参加の都内近郊の美術館・博物館は103施設ありました。

## ④ 資料の収集

### 資料の購入

《陶器》15代坂倉新兵衛 掛分花入1件 茶碗2件 計3件購入

## 2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

### (1) 助成事業

令和6年度助成金応募件数は6件あり、助成選考委員会を開催し、厳選なる選考の結果、令和6年度は下記2件の調査研究に対して助成を行いました。

a. 松本卓己 「英国に現存する中国漆器の調査」 助成金額 61万円

b. 曽和英子 「中国ヤオ族の織物の染織技術と文化の現代的継承」 助成金額 80万円

### (2) 表彰事業

#### 淡水翁賞（若手金属芸術作家奨励賞）

第39回淡水翁賞には11件の応募があり、選考委員会の審査の結果、下記三名が決定しました。最優秀賞は平戸亜海氏に、優秀賞は金孝眞氏と松本育祥氏が授与されました。授賞式は3月20日に千住金属工業㈱の5階第一会議室にて実施され、鈴木理事長より淡水翁賞が授与されました。